

浮き輪シュートゲーム

文・構成 犬塚亮子（神戸大学附属特別支援学校）



特別支援学校の授業では、教材探しに苦労します。既存のスポーツをそのまま持ってきたのでは、子ども達の「わかってできる」世界は保障できないからです。ことに「ボール」は、うまく手で扱えなかったり、転がるスピードについていけなかったり、シュートが難しかったりと、教材にすることには困難があります。

そんな中で数年前に「浮き輪」を思いつきました。浮き輪は、大きくてカラフル、そして軽くて穴があいていて持ちやすい、小さい力で投げてもふわりと跳び、跳ぶスピードもゆっくりです。そして手にも身体にも馴染みやすく扱いやすく、浮き輪の穴に手を入れての引っ張り合いもできる…などボールにはない利点があります。また「海やプールで使うもの」を陸で使うという意外性が子ども達の心をくすぐります。「体育の授業が嫌!」と体育の授業に苦手意識のある生徒にも受け入れやすい題材です。

浮き輪をつかった準備体操



浮き輪の穴に腕を通して回したり、浮き輪の上に乗ったり、穴の中に身体を入れてツイストしたり、走ったり。浮き輪を操作することで身体のいろいろな部分を意識して動かすことができ、動きも広がります。

授業では、準備体操にも浮き輪を取り入れています。前の教師の動きをお手本にして一人一つ浮き輪を持って動きます。BGMは「♪マツケン阿波踊り♪」。軽快で愉快的な曲に合わせて、いろいろな動きに挑戦です。子ども達の考えたオリジナルな動きも取り入れながら、動きのバリエーションをつくってきました。それぞれにお気に入りの動きもあって、楽しく取り組んでいます。



浮き輪から手を離して、穴から抜けないように走るのってなかなか難しい!

浮き輪の穴に手を入れて、つながっていくのも、相手の動きが伝わってきておもしろい!

一方向へのシュート

ボール運動で言えば、一番おもしろいのはシュートが決まる瞬間でしょう。「どの子もシュートの楽しさをたっぷりと味わえる＝ゲームの主人公になる」ことを大事にして、授業を進めています。

浮き輪シュートでは、ポールに突き刺す形がシュートです。子ども達には、浮き輪をつきさすシュートはわかりやすく、浮き輪が残るので達成感を味わえます。さらに、シュートにいく途中にディフェンスの教師をいれて、それぞれの能力に合わせてやりとりをしながら、子ども達の動きを引き出すようにしています。

①大きい浮き輪をつかったシュートゲーム



「シュート!」がわかるとディフェンスの意味も出てきます。大きな浮き輪の醍醐味は「浮き輪の取り合い」浮き輪の穴に手をかけて足で踏ん張り体重をかけ、渾身の力を込めてひっぱります。相手がいるからこそ、発揮できる力です。弾力のある浮き輪は、押したり引いたりを持ってこいの用具です。時には、浮き輪に足をからませて引っ張り合も…その姿は、まるでレスリング! 浮き輪をつかわなければ、このような動きや関わりは生まれません。中学部の子ども達は、この引っ張り合いが大好きです。

②小さい浮き輪をつかったシュート

3年ほど前から小さい浮き輪(直径50cm)を使っても取り組んでいます。ゴールは下の写真のように人が持つ棒です。シュートしやすいように棒を動かしたり、「ナイス!」と声をかけたり「人がゴールになる」ことで、やりとりが生まれ、子ども達のシュートの楽しさが倍増し、俄然シュート意欲は高まります。道具を加えてゴールを変化させることで、シュートの意味合いが変わってくるのです。

また、小さい浮き輪では、浮き輪を持ち、腰の高さでひねりを入れて、回転をかけて投げるといった技を習得すると楽しくなります。浮き輪の大きさやゴールをかえることで、シュートのおもしろさが変化するので。



小さい浮き輪とシュート棒



大きい浮き輪と小さい浮き輪

浮き輪シュートゲーム

小さい浮き輪シュートの楽しさは、「回転しながらふわりと弧を描いて跳ぶように投げる浮き輪操作」と、「ゴールの人とやりとりができるシュート」にあります。



浮き輪を持って、腰の位置で横にひねって構えてシュート!

対戦ゲーム

一方向のシュートをたっぷりしたら、対戦ゲームにも取り組みます。本校の中学部では、3クラスあるので、3つのゴールを置いてクラス対抗で行うことが多いです。

「対戦ゲーム」では、子ども達の発達段階や運動能力を鑑みて、それぞれの力が存分に発揮できるように設定を考えることが大事になります。浮き輪シュートでは、ポールの位置（コートの広さ）をどこにするか（コートの広さの調節）、ポールの高さや、シュート棒を誰が持つか（ゴール自体の工夫）、浮き輪を置く位置や数をどうするか、などがゲーム設定のポイントになります。その上で、誰と対戦するのか（させるのか）を子ども達の思いも聞きつつ、決めていきます。「誰を対戦相手に選ぶのか」は、子ども達の人間関係もあっておもしろいところです。教師も入って、やりとりの中身が膨らむような試合展開になるように工夫しています。「がんばれーあきらめるなあ〜取ってしまえ!」カラフルな浮き輪が、行ったり来たり、先生や友だちがレスリングのように絡むのは、見ていてもおもしろく応援席は、大いに盛り上がります。試合場面だけでなく、視覚的にも捉えやすく、見て楽しめるのも浮き輪シュートの魅力の一つです。またシュートした浮き輪は残るので、自分の結果がはっきりとわかります。試合後、浮き輪の数をみんなで数えて、試合結果を振り返ることを毎回、大事にしています。「勝った!」と大喜びしたり、「負けた!」と泣き崩れたり、時には大げんか! なんてこともあります。それだけ「心揺れる」ゲームなのでしょう。「勝敗だけにこだわるのではなく、自分の力を発揮できた! 爽快感、達成感を味わえるように、なってほしい」という願いを込めて、子ども達の内面の育ちもていねいに見ながら、学部の教師全員で体育の授業づくりに取り組んでいます。

対戦ゲームいろいろ…運動会でもここ数年取り組んでいます。

